

わたしたちにできること

ポイント

しょうがい ひと しゃかいてきしょうへき と のぞ しゃかい せきむ
障害のある人への社会的障壁を取り除くのは社会の責務である
という「障害の社会モデル」を理解すること。

しょうがい ひと およ かぞく さべつ ぶとう さべつてき
障害のある人（及びその家族）への差別（不当な差別的
とりあつか およ ごうりてきはいりょ ふていきょう おこな てってい
取扱い及び合理的配慮の不提供）を行わないよう徹底するこ
と。

じぶん こと じょうけん も たよう たしゃ
自分とは異なる条件を持つ多様な他者とコミュニケーション
をと ちから やしな ひと かか こんなん いた そうぞう
取る力を養い、すべての人が抱える困難や痛みを想像し
きょうかん ちから つちか
共感する力を培うこと。

「ユニバーサルデザイン 2020行動計画」より



まずは声をかけてみよう

しょうがい ひと こま み
障がいのある人が困っているところを見かけたら、こちらから
せっきよくてき こえ なに てだす き
積極的に声をかけて、何か手助けできることがないかを聞きまし
ょう。じぶん じぶん 無理そうなら、まわりの人にも助けてもらい
ましょう。

あいて たちば しぜん たす あ 相手の立場になって自然に助け合おう

しょう 障がいのあるなしにかかわらず、こま 困っているひと たす 人を助けるのは
とうぜん 当然のことです。しんせつ 親切のつもりが、めいわく かえって迷惑なこともあります
ので、どんなことをしてほしいかをきちんときき 聞いてから「おた
がいさま」というしぜん きも たす あ 自然な気持ちで助け合いましょう。

ちが りかい ひとりひとりの違いを理解しよう

しょう 障がいには、さまざまなしゅるい しょうじょう ちが 種類や症状の違いがあります。しょう
のあるひと こせい とく ひとり ちが 人の個性や特ちょうも一人ひとり違います。コミュニケー
ションをとり、おたが りかい あ 互いを理解し合いましょう。

ひとり ひとり ひとり
こうどう かんが かの
一人ひとりの行動や考え方で

かいけつ
解決できるバリアがあります。

あいて きも
相手の気持ちになって、

じぶん かんが たいせつ
自分のできることを考えることが大切です！